

序

当研究所では、平成11年度も教育論文の刊行を企画して原稿を募集したところ、「論説の部」に6編、「実践記録の部」に6編の積極的な応募をいただきました。

「論説の部」では、まず、ドイツのユネスコ協同学校スタディツアーに参加した先生から、ユネスコ協同学校の教育理念と国際教科書研究所の果たしてきた役割を紹介しながら日本の国際理解教育推進上参考となる点についての提言をいただきました。また、本市の5人の外国語指導助手（ALT）がそれぞれの立場から本市の英語教育についての感想、あるいは提案等について述べております。関係者に是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

「実践記録の部」につきましては、学校関係者から、小学校4年生社会科副読本「のびゆく足利」で地域の発展につくした人々を扱った単元「足利学校を守る」に関する内容分析と授業構想についての研究、学習に感動させる工夫として「つかむ・すすめる・たしかめる」の学習過程を大切に理科の指導法改善に取り組んだ実践、物質とエネルギー領域において「ものづくり活動」を通して児童の主體的な理科学習を目指した実践、中学校技術・家庭科「保育領域」において生徒の問題解決能力を高めるために地域との交流体験を取り入れた実践が紹介されています。また、社会教育関係者からは、生きる力を育てるための望ましいPTA活動を求めた実践、地域の教育力を高めるために心の教育推進モデル市町村事業に取り組んだ実践が報告されました。いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの教育関係者から日頃の教育的思索や研究実践の成果を発表していただきました。これらの論文は、読者の皆さんの教育観を深める大きな契機となるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も巻末に教育論文集第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しましたので、今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者をはじめ、関係各位にお礼を申し上げるとともに、皆様のますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成12年3月

足利市立教育研究所長

石川博右